

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1292200365		
法人名	社会福祉法人 美野里会		
事業所名	グループホーム輝陽園		
所在地	千葉県柏市酒井根69-1		
自己評価作成日	平成28年 1月 19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成28年2月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設は静かな住宅地内に建ち、敷地面積は3000㎡以上あります。敷地内には木々も多くあり車両等の通行も少ないことから、安心して散歩をしながら自然を感じる事ができます。畑や花壇もあり園芸活動を行いながら季節の野菜や花々も楽しむことができます。施設の目の前には小学校があり、子供達の登下校の姿が見えたとともに子供達の演奏会や行事の参加等の交流があります。施設内でも同法人の他事業所(特別養護老人ホーム・小規模多機能)のご利用者様とともに、1週間に1度デイサービスを開催し体操やゲーム等で交流を深めています。町会との交流も行っており、夏祭りや文化祭等の行事に参加させていただいています。建物は鉄筋コンクリート構造でスプリンクラー・消火栓・消火器を完備しており、災害に強い構造となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム輝陽園」は、小規模多機能施設・地域密着型特別養護老人ホームが併設した複合施設である。地域住民の施設理解度は深く、地域行事や施設行事にて交流している。施設内に施設交流スペースを設け、地域住民が気軽に施設を訪れるよう工夫している等、交流が活性化する仕組みを取り入れている。また、各ユニット・施設毎の特徴・個性を活かし、食事の献立等はセクション毎に作成している。希望休の採用・有給休暇の消化に取り組んでいる他、今年度は、職員間での検討機会を増やす等、職場環境の整備にも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が新人研修を始め、各会議の中でも機会があるごとに理念の話をしている。日々の業務の中でも利用者一人一人とゆっくり話をすることを基本としている。	「私たちが大切にしていること」と題した理念を掲げており、事業所内に掲示している。年1回の全体研修において、理念・方針を説明すると共に、定期的に会議等の議題に挙げ、職員への周知を図り、理念に基づく施設サービスの実現に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	積極的に地域の行事に参加している。夏祭りではご利用者様の参加とともに有志の職員で模擬店を行ったり、文化祭では皆さんで作った作品を展示している。また、施設内の地域交流スペースを地域のサークル活動に無料でお貸ししている。	地域行事や保育園・小学校の行事見学等に参加しており、地域との交流を積極的に行っている。また、施設行事に地域住民・家族を招待し、楽しみ事の共有を図っている。その他にも、施設内に地域交流スペースを設け、地域の人が気軽に施設を来訪できるよう工夫している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に活かしている	民生委員の研修場所として施設を利用させていただきながら現場の見学及び説明をしている。サービスのご利用に関係なく地域の方の介護に関する相談も随時行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議でのご意見、ご要望は毎回記録に残し、次回の会議の際に状況報告を行っている。会議終了後にも個別の質問に対応している。	運営推進会議は年6回開催しており、地域包括支援センター職員・民生委員・他グループホーム管理者・等が出席している。会議では、施設活動報告や質疑応答を行っており、施設理解の促進及びサービスの質の向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センターの出席をお願いし、毎回意見交換を行っている。また研修等のその他の場所でも相談ができる関係を築いている。	日頃から市に対して、報告や相談を随時行っており、適切な連携を図っている。また、柏市グループホーム連絡会に参加しており、市職員及び他事業所と意見・情報交換を行う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないことが美野里会の理念であり、全職員を対象に年度初めに理事長から身体拘束防止に関する研修を受けている。グループホームの玄関の鍵は常時開放されているが、施設全体の玄関は他事業所の関係で施錠されている。	身体拘束排除・高齢者虐待防止・権利擁護等の外部研修参加を行っており、職員に適切な支援方法を周知している。また、鈴等を活用し、安全確保をした上で、施設の玄関は施錠せず、自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	柏市の行う権利擁護の研修に毎年必ず参加している。その他にも社協や他団体の行っている権利擁護の研修に参加しており、報告書は全職員が自由に閲覧できるように工夫している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市内のグループホーム連絡会や他団体の連絡会等に積極的に参加し、権利擁護等の研修も行っている。法人内で複数人が成年後見人制度を利用しているため、施設内で情報交換もおこなえている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書の他に重要事項説明書や事業内容及び個人情報の取り扱いについて細かく説明している。また、契約前に1～3度程度、施設見学の他に料金等についても説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に話を聞く姿勢を持つように職員には会議や研修で話をするのと同時に、運営推進会議や意見箱での要望や指摘事項に関しては必ず文書で公表し改善を図っている。	家族の来訪時・電話連絡時等を活用して、家族からの意見・要望等を確認していると共に、運営推進会議等で外部からの意見も確認するよう努めている。挙げた意見・要望においては、会議・申し送り等を活用して周知・検討の上、適切な改善に努めている。また、意見・要望・施設からの返答は公表し、施設運営の透明化を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議を開き、職員は自由に発言できる機会を作っている。また、必要時には法人内での全体会議に意見を提出し議論を行っている。	定期的に職員会議を開催し、職員からの意見・提案等を確認している。今年度から職員間での検討機会を増やし、より職員の意見を反映させた施設運営に取り組んでいる。希望休の採用・有休休暇の消化にも積極的に取り組んでおり、働きやすい職場環境の整備にも努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1度、職員の昇給時に代表者が一人一人と面談をしている。特にパート職員には毎年労働時間等の条件をききながら出来る限り対応をしている。月ごとの勤務表作成時に各職員の希望休や有休の要望に応えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で研修委員会を設置し、定期的に必要な研修を行っている。また、外部からの研修案内は全職員が自由に確認でき、希望する者があれば参加できる体制になっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内各団体の定例会や職員交流会に参加している。その中には他施設見学や意見交換のための集まりがあり出来る限り多くの職員を出席させている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に必ず本人や家族と数回面談をすることで職員となるべく早くなじみの関係を築く努力をするとともに情報を多く得ることができている。家庭での本人の生活リズムを参考にサービス計画を作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に数回の面談を行いながら家族の意見等を聞いている。また、サービスの説明も十分に行いお互いに行けることの確認をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約前の面談時にサービスの内容を丁寧に説明している。必要時にはグループホーム以外のサービス説明もし、紹介等もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意向や得意な事、残存機能を考慮しながら日々の生活の中でできることをお手伝いいただいている。また、歌や物づくりの活動を通して他者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状態の変化があった時等、すぐに家族に連絡をし、状況説明をしながら常に相談をしている。家族が来園された時も必ず近況報告をし、一緒に相談しながら対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの拒否が無い場合、面会に時間等の制限がないため、知り合いや近所の方の面会がある。いつでも来ていただけるよう職員から声掛けを行っている。	希望に応じて、友人・知人・家族の来訪を受け付けている。面会時間に制限は設けず、気軽に施設に来訪してもらえるよう工夫していると共に、外出・外泊も自由となり、馴染みの関係継続を支援している。また、少人数・個別対応を実施し、馴染みの場所での楽しみを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット内では職員とともに洗濯たみや歌等の趣味活動を行うことで他利用者との交流を保っている。また、ユニット同士の交流や他事業所との交流も、施設内のデイサービスや他の行事で行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時に退去後の援助の説明をするとともに、介護に関する相談は常時受けていることも説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話の中で生活歴や趣味・特技を知る努力をしている。会話が困難な方も家族からの情報や前に利用していたサービスからの情報をもとに本人の趣向を知る努力をしている。	契約時に本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、医療機関や他事業所からも情報収集し、より詳細な情報の把握に努めている。入居後はコミュニケーションを図りながら意向・ニーズの確認に努め、職員間で意見・情報交換を行い、本人本位のサービスの実現及び情報の共有に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前に数回面談を行い、本人や家族から情報を得ている。また、本人・家族の了解を得ながら利用されていたサービス状況の情報も他事業者から得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	面会時の情報を基に、サービス利用開始から細かく日常生活の様子を観察し記録をしている。それらを合わせてカンファレンスを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成者を中心に、本人や家族の希望、カンファレンスの内容、各チェック表、介護職員の意見を聞きながら介護計画を作成している。	本人・家族の意向を基に、職員間で検討しながら介護計画を作成している。計画作成担当者は定期的に夜勤帯を担当する事もあり、より詳細なニーズを把握した上での介護計画作成を行っている。定期的に目標の達成状況の確認及び評価を行い、定期または必要時に介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で、普段と変わったことや気づいたことを中心に支援経過に記録し、全職員で共通の情報とするとともに、経過状況を家族につたえ意見をもらいながら介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の希望を聞きながら、専門医療の紹介や情報提供等を行っている。リハビリや歯科衛生士の紹介を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物や散歩を常時行うことで、地域の住民と顔見知りの関係ができ交流も生まれている。地域の催しにも作品展示等を行うことでリハビリや精神的な達成感を得ることができている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選択は十分説明をしたうえで本人や家族の希望をきいている。必要時には専門医療機関の紹介や往診もお願いしている。また、緊急時に適切な処置ができるよう、数力所の医療機関と協力関係を築いている。	希望の掛かりつけ医への受診や内科医・歯科医の往診を実施しており、適切な医療受診を支援している。また、緊急時・急変時に備えて、複数の医療機関と協力関係を構築し、適切かつ迅速な対応ができるよう体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師に随時相談できる体制ができている。また、各協力病院でも必要時に電話等で相談できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、施設での生活様子を細かく報告するとともに、面会も多く行いご本人の状況確認と病院関係者から現状報告を受ける努力をしている。退院時にはサマリーをもらうとともに、今後の生活での注意事項も確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にその段階での終末期に対する家族の希望を聞いている。また、施設のできることの説明も行っている。主治医の往診と訪問看護の利用ができる体制を整えている。	契約時に重度化・終末期における意向の確認を行っており、必要時・希望時には家族・医療機関等と相談しながら意向に沿った支援を行えるよう体制を整えている。法人内での連携を活かして、ニーズに応じたサービスの実施・切り替えが行えるよう密な協力体制を構築している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、定期的に研修を行っている。マニュアル作成には法人内の看護師の指導を得ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている	夜間想定避難訓練も毎年行っている。避難訓練とともに消防署や地元の消防団の協力を得ながら防災の研修を行っている。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報器等の消防設備を設置していると共に、定期的に避難訓練及び設備点検を行っている。訓練では、消防署立会い訓練・夜間想定訓練等を実施し、状況に応じた避難方法の確認を行っている。また、地域住民も訓練に参加しており、災害時・緊急時の協力の呼びかけを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護を新人研修の中で行っている。外部の研修にも参加しており、会議の中では言葉使い等について話し合っている。	新人研修の実施・権利擁護を含めた外部研修への参加等を通じて、職員へ意義の周知を図っている。同姓介助を基本とし、入居者のプライバシーの配慮に努めると共に、会議等で接遇面の検討を行い、適切な支援の実践に努めている。	現在、接遇面(言葉遣い)について施設の課題として挙げており、今後は研修の実施を検討し、更なるサービスの向上を目指していただくことを期待します。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や飲み物をはじめ、日常生活の細かいことから本人の希望を聞きながら行っている、入浴の時間や寝る時間も本人の希望を伺っている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まずは本人の希望を聞いてから説明等を行い理解を得る努力をしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴後の衣類は本人の希望を聞きながら準備している。誕生会や行事参加の外出時にはお化粧したり衣類を選んだりとおしゃれを楽しむ援助をおこなっている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も検食として一緒に食事をとりながら味や量を確認している。献立は1週間単位で利用者と一緒に考えながら行っている。	入居者の能力や希望に応じて、食事の準備から片付けまで共同で行っている。献立作成及び食材の買い出しは、入居者の希望に合わせて、共同で行い、食に関する興味を引き出す工夫をしている。また、定期的に行事食の提供を行っており、食に対する楽しみを支援している。	今後は外食会等の実施を検討していただき、食に対する楽しみをさらに充実化・拡大していただくことを期待します。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病気や本人の状況に合わせてチェック表を作成して食事内容や水分量を確認している。身体状況に合わせて高カロリードリンクなどを準備している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各個人に合わせて口腔ケアの声掛けや直接介助を行っている。必要時には歯科医師や歯科衛生士にも家族了解のうえ確認をしてもらっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄チェック表を作成し、個人の排泄リズムを把握する努力をしている。チェック表の確認からトイレへの誘導もしている。	排泄チェックリストを活用しながら、個々の排泄パターンを把握しており、声掛けやトイレ誘導にて排泄の自立に向けた支援を行っている。夜間においては、ポータブルトイレの設置・トイレ誘導等にて、適切な支援を行っている。また、乳製品や繊維質のある食べ物の提供等を行い、自然排便を促す工夫も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無は毎日確認している。日頃の食事から植物繊維を意識しながらヨーグルトやオリゴ糖その他乳酸菌の飲物も準備している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	契約時に夜勤帯を除き毎日いつでも入浴できることを説明している。入浴時間もその日に伺いながら決めている。	入居者の体調や希望に応じて、柔軟に対応しながら適切な入浴機会を確保していると共に、清拭・シャワー浴・部分浴を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。特殊浴槽を導入しており、身体状況に合わせた入浴支援も可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動の途中でも休息できるようにソファ等を用意している。寝る時間もそれぞれのリズムに合わせて、その都度就寝介助をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	支援経過の中で受診結果と変更になった薬の内容と副作用を記録し、全職員の情報としている。分からない事は薬剤師に相談できる体制ができています。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除の手伝い等、本人の意思を確認しながら行っている。1週間に1度、他事業所と合同のデイサービスを開きゲームや体操をしながら他者との交流を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買物は本人の希望をききながらほぼ毎日行っている。地域の行事にも席の確保や車の誘導等の町会の協力を得ながら積極的に参加している。	日頃から散歩・買物・ドライブ等を実施しており、戸外に出る機会を設けている。散歩コースは四季を感じられる環境が整備されており、入居者の楽しみとなっている。また、定期的に外出行事を企画・実施しており、戸外での楽しみを支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	契約時に本人や家族の希望をきいて、金銭管理を自己管理することもできる。衣類や菓子類等の買物も施設から立て替えをして自分で会計を行うことも行っている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のや手紙の取次ぎは常時行っている。携帯電話の持ち込みも自由で、操作方法に援助が必要な方には介助を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂に季節ごとの貼り絵や飾りつけをして季節を楽しんでいただけるようにするとともに、清掃は夜間も含め細目に行い、特に匂い等で不愉快な思いをしないよう努力している。	施設内は季節飾りや作品の掲示を行い、入居者が季節感を感じながら楽しく過ごせる環境となっている。また、共有スペースに、ソファ・椅子等を設置し、自由にくつろげるよう配慮している。施設内随所に洗面台を設置しており、感染症防止に配慮した設計となっている。その他にも清掃をこまめに行っており、施設内の衛生管理に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置き、他者と交流がとれるように工夫している。食事席もいつでも使用できるように配置を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	重量や大きさ、火の使用以外のものを自由に搬入することができている。本人や家族の意思でカーペットを敷いたりカーテンを変えたりすることもできている。	希望に応じて、馴染みの家具等を持ち込むことが可能となっており、居心地よく生活できる様配慮していると共に、布団を敷く事・ポータブルトイレやテレビの設置等も可能となっており、生活歴に合わせた居室作りを行っている。各居室に鍵・収納が設置されており、プライバシーの確保がなされている他、温水栓付の洗面台が設置されているなど利便性にも配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内全域がバリアフリーとなっていて、廊下やトイレ、浴室内すべてに手すりが完備されている。車いすでも自走できるよう、廊下は広くとれている。各居室の入口扉も軽い力で開けることができ、ゆっくりと自然に閉まる構造になっている。		